

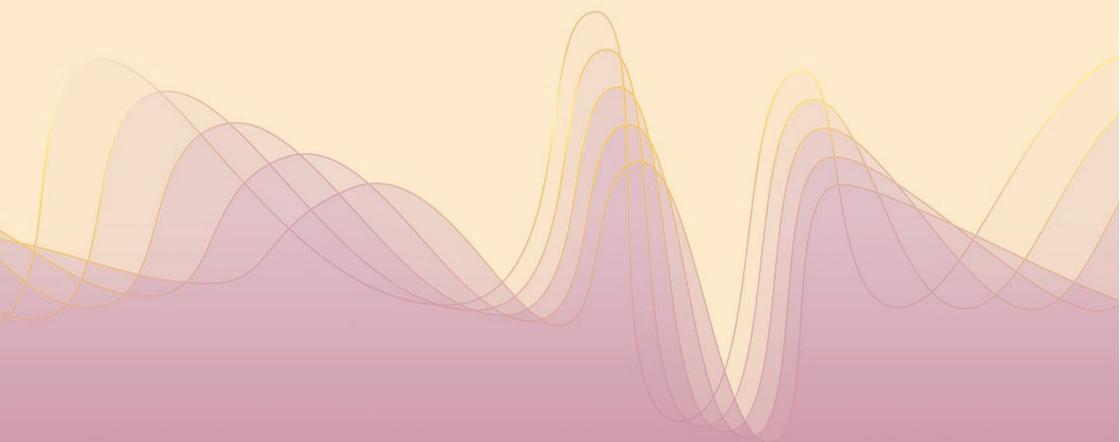
対面実技グレード検定



木管楽器 受検要項

2026年以降

和訳



木管楽器実技検定 受検要項 2026

目次

1. はじめに	3
ABRSMについて	3
資格認定における詳細	3
実技グレード検定について	5
UCAS ポイント (英国)	5
資格認定規定 (英国以外のヨーロッパ)	7
資格認定規定 (その他の国)	7
2. 対面実技グレード検定	8
対面実技検定の概要	8
検定規定集	8
不正受検と不正運営	8
受検資格	8
受検申込み	8
受検へのアクセス	9
多様性	9
受検の実際	9
3. 木管楽器実技検定シラバス要項 2026	10
はじめに	10
• 楽器	10
• 検定所要時間	11
• 課題曲	12
• スケールとアルペジオ	13
• 初見演奏	16
• オーラルテスト	16
スケールとアルペジオのパターン	17
初見基準表	21
課題曲リスト	23

オーラルテスト詳細	145
4. 評価と採点, 及び違反行為	153
評価の目標	153
評価の配点	157
評価の区分	157
包括的評価について	157
評価	157
違反行為	158
採点基準	158
5. 検定の後に	161
結果	161
アピールとフィードバック	161
検定プログラム用紙 提出用	162

1. はじめに

ABRSMについて

ABRSMは英国王立音楽検定協会(The Associated Board of the Royal Schools of Music)であり、国際的な音楽教育慈善事業です。私たちがやっている全ての中心には、音楽が人々の人生を豊かにするという信念があります。受け継いだ伝統に基づき、全世界の生徒や教師たちに対面実技及びオンライン検定、楽譜、音源、アプリ、講義などを提供しています。我々の検定は明確な目標と信頼できる一貫した評価、そして今後の学習のためのガイドを受検者たちに与えています。

私たちは、英国王立音楽大学からの協力のもと、様々な音楽的な成果を得て来た長い歴史を持っております。単純な検定機関としての役割を超え、全世界の学習者を最初の一音から支援し、音楽スキルを培い成長させていくための手助けをする先生たちの力添えとなっています。

慈善団体として、私たちは得た全ての利益を音楽教育の取り組みへの寄付や世界中の学習者や教師の支援に投じています。私たちは音楽をその様々な面において支持しており、社会における音楽教育の位置とその未来を守るために出来ることに尽力しています。

1889年から、全世界のパートナたち、先生たちやその他の方々と共に、皆様は「音楽の旅」を始める、又は続けられるように音楽の未来を育てて来ましたが、これからも同様に励んでいく所存でございます。

ABRSMとは？

ABRSM (Associated Board of the Royal Schools of Music) はイングランドとウェールズにおいて慈善団体として登録されている団体であり、事務局はロンドンにあります。詳しくは公式サイトをご覧ください。

www.abrsm.org

資格認定に関する詳細

資格範囲

この資格認定に関する詳細には、指導者、受検者、保護者そして団体が以下のセクション3に属する実技検定試験を準備する際に役立つ資格規定の関連情報が掲載されています。

- ABRSM 音楽実技におけるエントリーレベル資格(イニシャルグレード)(エントリー3)
- ABRSM 音楽実技におけるレベル1資格(グレード1, 2及び3)
- ABRSM 音楽実技におけるレベル2資格(グレード4と5)
- ABRSM 音楽実技におけるレベル3資格(グレード6, 7及び8)

また、検定の過程、学習の成果、採点基準などの詳細が掲載されています。検定の事務事項などを含める詳細は、**ABRSM検定の規定概要** (www.abrsm.org/examregulations)にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。

要項の有効期限

この要項は表紙に記載されている日付から有効です。詳細は、セクション3をご参照ください。

特別な事情がある場合にはシラバスに変更を加えることがあります。その場合はウェブサイトにて前もってお知らせ致します。

この要項の最新版はwww.abrsm.org/examにて閲覧可能です。

対面実技グレード検定について

資格検定の目的

対面実技検定資格は学習者の学びの道を支えるために、習得した実力のレベルに合わせて公式に認定を受け、評価を得られるように手助けします。対面実技検定資格は学習者が自身の楽曲演奏及びテクニック、読譜、聴音と音楽的解釈などにおけるスキルに対し報われ認められるようにします。各グレードにはそれぞれに新しい課題が用意されており、学習者が無理なく意欲を持って引き続き音楽技能を発展させ磨いていけるよう構成されています。

受検資格

対面実技検定受検においては年齢の制限はありませんが、グレード6から8を受験するには受検資格条件を満たす必要があり、詳細は英文5ページに記載しています。

学習の道すじ

ABRSMの対面実技グレード検定はグレード1から8まであり、楽器によってはイニシャルグレードからはじまります。各グレードは、その要求される難易度が段階的に上がるようになっていて、グレード6、7、8は受検資格の事前取得が必要ですが、必ずしも下から順にすべてのグレードを一つずつ受検していく必要はありません。(5ページ参照)

対面実技グレード検定は早い段階から、曲の演奏、技能、そして初見や聴音などを含む幅広い音楽的なスキルを培うことに重点を置いています。

対面実技検定の受検者は自身の演奏スキルに集中したいと考え、音楽パフォーマンスグレード検定を受けることも出来ます。これらの検定は学習者が楽器のコントロール、音楽的な解釈、コミュニケーション、伝達など演奏に関連する重要なスキルを示すように構成されています。各グレードは段階的に上がり、それぞれに新しい課題が用意されており、学習者が無理なく意欲を持って引き続き演奏に必要なスキルを磨いていけるよう構成されています。音楽パフォーマンスグレード検定はさらに受験者が一定の長さ以上の持続的なプログラム全体を演奏し、音楽的なコミュニケーションをとるためのスキルについて評価され認められるように手助けします。

どちらの検定の性質もABRSMの演奏のみのARSMを始めとするディプロマへと進むための基盤となります。ARSMは受検者にプログラムの構成において更に多くの自由と責任を提供し、レパートリーの幅を広げながら演奏テクニックと解釈のスキルを培って行く機会を提供します。

どちらの検定の性質もABRSMの演奏のみのARSMを始めとするディプロマへと進むための基盤となります。ARSMは受検者にプログラムの構成において更に多くの自由と責任を提供し、レパートリーの幅を広げながら演奏テクニックと解釈のスキルを培って行く機会を提供します。

LRSM,FRSMディプロマはARSMから段階的に上がったレベルです。ライブ演奏と筆記/口頭発表の要素を通して、LRSMとFRSMレベルの学習者は高レベルの音楽性、評価能力を証明し、演奏における音楽的な判断を裏付ける状況的な証拠を提供します。

ABRSM演奏ディプロマ取得への学習者の個人的な動機に関係なく、各資格は更に上位の学び、または就職への道を開くことも出来ます。

ディプロマ資格などに関する更なる詳細はwww.abrsm.org/diplomaも合わせてご覧下さい。

資格規定

受検資格の事前取得

グレード6、7、および8の受検者は検定の申し込み締め切り日までに以下の検定に合格していなければなりません。

- ABRSM 音楽理論 グレード5以上
- 同プラクティカル・ミュージシャンシップ グレード5以上
- 同対面実技検定ソロのジャズ楽器 グレード5（訳註：日本では行われておりません）

代替条件を含む詳細については www.abrsm.org/practicalgradesを参照のこと。

UCASポイントの資格認定規定(英国)

資格認定機関

ABRSMの対面実技検定、パフォーマンス・グレード、音楽理論検定、上級資格検定(ディプロマ)は英国において次の機関によって認定されています。

- 資格・試験監査機関(Ofqual)
- ウェールズ資格機関
- 北アイルランドカリキュラム・試験・評価評議会(CCEA 認定)

詳しくは、次のリンクをご参照ください。 www.abrsm.org/regulation

規定資格単位枠組み (RQF)

ABRSMの全ての認定資格はRQFに含まれています。詳細は、<https://register.ofqual.gov.uk> をご覧ください。

高等教育機関入学

英国では、ABRSMの対面実技検定とパフォーマンス・グレードのグレード6から8までに対してUCASポイントが付与されます。以下の表では、各グレードに付与されるUCASタリフのポイント価値を表しています。詳細は、www.ucas.comをご参照ください。

資格/レベル	合格(可)	UCAS ポイント	
		メリット(良)	ディステインクション(優)
グレード6	8	10	12
グレード7	12	14	16
グレード8	18	24	30

資格認定規定の詳細

資格タイトル

以下の表には対面実技検定資格におけるそれぞれの認定資格のタイトルと資格番号を記しています。詳細は次のリンクをご参照ください。 <https://register.ofqual.gov.uk>

資格番号	資格タイトル
603/6405/1	ABRSM 対面実技入門レベル授与(イニシャル)(エントリー3)
603/6406/3	ABRSM 対面実技レベル1 授与(グレード1)
603/6407/5	ABRSM 対面実技レベル1 授与(グレード2)

資格番号	資格タイトル
603/6408/7	ABRSM対面実技レベル 1 授与 (グレード3)
603/6409/9	ABRSM対面実技レベル 2 認定証明(グレード4)
603/6410/5	ABRSM対面実技レベル 2 認定証明(グレード5)
603/6411/7	ABRSM対面実技レベル 3 認定証明(グレード6)
603/6412/9	ABRSM対面実技レベル 3 認定証明(グレード7)
603/6413/0	ABRSM対面実技レベル 3 認定証明(グレード8)

資格規模

以下の表では、各対面実技検定資格の規模をそれぞれに受検者が掛ける一般的な時間を記して表しています。

- 教師の指導有 (指導者もとの学習時間Guided Learning Hours);
- 教師の指導時間と個別の準備に掛かった時間の合計 (総合資格取得時間 : Total Qualification Time)

および

- 割り当てられた単位 (資格の規模を示す単位).

レベル	指導者元での学習時間* (GLH)	総合資格取得時間* (TQT)	単位 (クレジット)
イニシャル	8	40	4
グレード1	12	60	6
グレード2	18	90	9
グレード3	18	120	12
グレード4	24	150	15
グレード5	24	180	18
グレード6	36	220	22
グレード7	48	270	27
グレード8	54	320	32

* 指導者もとの受講時間と総合資格取得時間は受検者がその資格の準備に要する推定平均時間であり、目安としてのみご参照ください。個々の経験や能力による差分はあります。

資格認定規定(ヨーロッパ)

ヨーロッパ規定資格枠組み(EQF)は、様々な国の資格を繋げる包括的な枠組みで、それぞれを比較し、換算することが出来るようにします。EQFには全体を通して8つのレベルがあり、それぞれの資格を位置づけることが出来ます。これらのレベルは英国のRQFとは類似している部分もありますが、完全に一致するものではありません。

次の表では、ABRSMの対面実技検定資格のRQFとEQFにおけるレベルを比較しています。

資格	RQF レベル	EQF レベル
イニシャル グレード1	入門レベル(エントリー3)	レベル1
グレード2	レベル1	レベル2
グレード3		
グレード4	レベル2	レベル3
グレード5		
グレード6		
グレード7	レベル3	レベル4
グレード8		

資格認定規定(それ以外の国)

各国のポイントについては以下を参照願います。

www.abrsm.org/regulation

2. 対面実技グレード検定

対面実技検定の概要

検定内容は？

- 課題曲3曲
- スケールとアルペジオ
- 初見
- オーラルテスト

検定方法は？

- 1対1の対面検定
- 評価と配点についての情報は 英文157ページを参照

検定規定集

検定を準備する際、このシラバス(要項)に記載されている受検時の規定を定めている ABRSM検定規定集を熟読することは非常に重要です。この情報は、次のリンク及び日本事務局のホームページからご覧いただけます。 www.abrsm.org/examregulations.

不正受検と不正運営

私たちは、いかなる不正行為や不正運営も深刻に扱います。

- **不正受検**とは、検定の過程、資格の整合性、評価や証書の正当性を損なわせる妥協的行為およびそのような行為の試みを指します。これにはABRSMの資格授与機関としての名誉や信用を傷つけるような行為も含まれます。
- **不正運営**とは、手続きが著しく規定に反するもので、特にこれが検定結果の公正性を損なう場合を指します。

受検者、受検申込者は当該シラバス及び検定規定集、をもとに決められた手続きに従って、受検を行うものとします。受検者及び申込者によって不正受検が行われた場合は罰則があります。不正受検と不正運営に関する詳細は英国公式ウェブサイトにてご参照ください。 www.abrsm.org/policies

受検申込

検定日程、会場、受検料、申込方法については下記のサイトをご覧ください。

www.abrsm.org/exambooking (又は日本事務局ホームページ)

受検へのアクセス：特別な配慮

ABRSMは、視覚障がい、学習障がい、その他通常受検が困難なすべての受検者が、この検定を受検できるように、ガイドラインを設け努めてまいります。詳細は次のページにてご確認ください。 www.abrsm.org/specificneeds このガイドライン以外の事例については、ケースバイケースで対応いたします。詳しくは受検アクセスチームにご相談ください。(specificneeds@abrsm.ac.uk)日本で受検される場合、日本事務局にまずお問い合わせください。 info@kakehashi-foundation.jp

特別な配慮

受検者が突然の病気や事故、悪阻、或いは検定直前の不慮の不都合な状況に陥った場合には、特別な配慮がなされます。これは、検定員による配点や評価が変わるということではありません。詳しくは、次のリンクをご参照ください。 www.abrsm.org/policies.

多様性

ABRSMは音楽界においてさらに多様性、平等性、そして包容力を推進していくことに全力を尽くす所存であり、私たちの組織内においてもこれを成し遂げるため努めております。私たちの多様性を担当する部署及びその最新情報については英国公式サイトページをご参照ください。 www.abrsm.org/diversity-statement

検定の実際

検定員

通常、1名の検定員によって検定が行われます。課題曲の前後に検定員が楽譜を確認する場合があります。

検定員はプログラムの前後にスコアの確認をすることがあります。その際は受検者又は伴奏者のスコアが使用されますので、余分に用意する必要はありません。

検定員の判断で演奏を途中で止める場合もありますが、それは演奏を評価するに十分と判断されたためです。

調律：チューニング

受検者は、検定に必ず自分の楽器を持参し、事前にチューニングを済ませておく必要があります。グレード1-5までは、必要に応じて検定前に指導者、又は伴奏者がチューニングをしても良いことになっています。それ以外のグレードでは受検者自身がチューニングを行います。検定員がチューニングをしてあげることはできません。

譜面台

検定会場には譜面台が用意されていますが、受検者は自身で持参することも出来ます。高さの調節などは検定員が手伝う場合もあります。

検定科目の順番

受検者は、どの科目からでも受検できますが、伴奏者が必要な曲や、デュエットの場合は最初に続けて受検するのが望ましいです。

楽器

ABRSM認定会場においては、アップライト/グランドピアノが用意されています。ピアノ以外の受検者は必要な道具（例：足台、フットピン）の携帯を忘れないこと。詳しくはこの要項のセクション3に記載されています。

3. 木管楽器対面実技検定 シラバス要項2026

はじめに

- 課題曲リストが、新しい曲と既存の曲を含めたものに改訂されました。
- 課題曲レパートリーの選択肢がより多くなり、多様な音楽ジャンルの曲を含むようになりました。

スケールとアルペジオ、初見とオーラルテストの内容は従来のシラバスから変更はありません。

このシラバスは2026年1月1日から、次のシラバス発行の告知があるまで有効です。

シラバスの変更

すべての変更—マイナーな変更点を含む変更告知—は、その都度下記の公式サイトに掲載されます。 www.abrsm.org/syllabuscorrections

移行期間

シラバス変更の一年目においては、前のシラバスを用いての受検が可能です。移行期間についての詳細は、以下のサイトを参照のこと。 www.abrsm.org/overlap

2026年12月31日まで全世界にわたり、木管楽器受検者は2022年シラバスからの課題曲、スケール課題を演奏することが可能です。但し新旧2つのシラバスを同時に使用することはできません。

次のシラバス

次の木管楽器シラバス更新日は、現時点において未定です。更新がある場合、事前にウェブサイトにてお知らせします。 www.abrsm.org/syllabusupdates

楽器

実技検定シラバスは、標準的なオーケストラ楽器を基準として作成されています。ABRSMは多くの生徒たちが最初に、身体の小さい方/子供用に特別デザインされた楽器(訳注: 派生楽器と称する)をもって音楽の道を歩み始めることを十分に承知しております。私たちは検定においてのこれらの楽器に関して www.abrsm.org/policiesにて提示されている規定に沿った使用を許可しております。

このような派生楽器のうち、標準的な楽器と違う調性の音が出る楽器の場合、グレード4から8のオーラルテストにおいて、オプションが制限される場合がございます(148—152ページ参照)。

このシラバスで扱われているその他の楽器については、以下をご参照ください。

リコーダー: デサント(ソプラノ)とトレブル(アルト)は各々、別々の要項が用意されています。デサントリコーダーの受検はG1-5までの対応となります。

派生楽器オプション:

デサントリコーダー: 3つの課題曲のうち一曲をテナーリコーダー又はトレブルリコーダーで演奏することが可能です(トレブルリコーダー用シラバスの該当するグレード課題曲から選択)。トレブルリコーダー課題曲から選ぶ場合、3つの曲目リスト(A,B及びC)から一曲ずつ演奏するという規定に沿って選択しなければなりません。

トレブルリコーダー：グレード1から5において、3つの課題曲のうち一曲をデサントリコーダーで演奏することが可能です(デサントリコーダー用シラバスの該当するグレード課題曲から選択)。デサントリコーダー課題曲から選ぶ場合、3つの課題曲リスト(A,B及びC)から一曲ずつ演奏するという規定に沿って選択しなければなりません。グレード6から8において、課題曲リストに表記されている場合に限り、3つの課題曲のうち一曲を同属楽器で(ソプラニーノ、デサント、テナー又はバス)で演奏することができます。受検者が楽器を途中で替える必要のある曲はプラスのシンボルで記され(例：**TREBLE+DESCANT**)、派生楽器オプションの選択とはみなされません。このオプションを選択することによる加点及び利点は特にありません。他の検定内容はすべて申込時に選択した楽器で行われます。

クラリネット：この要項に掲載されている課題曲の大部分はB♭管用となっています。A管用の曲は要項に出版社が記載されています。課題曲の一部はC管用の伴奏譜が出版されており、課題曲リストに掲載されています。

バスーン：課題曲の一部は実音より4度又は5度上の伴奏譜が出版されており、課題曲リストに掲載されています。

サクソフォーン：ソプラノ、アルト、テナー、バリトーンサクソフォーンでの受検が可能です。E♭管とB♭管の課題曲は各々別のリストに掲載されています。その他の課題は共通です。

派生楽器オプション：全グレードにて、ソプラノ、アルト、テナー、バリトーンのサクソフォーンのうちひとつで申込んだ受検者は課題曲のうち一曲を他の三種類のうちひとつで演奏することが出来ます。このオプションを選択することによる加点及び利点は特にありません。他の検定内容はすべて申込時に選択したサクソフォーンで行われます。

一部の課題曲や曲集名に特定のサクソフォーンを示すものがありますが、これらは出版情報及び作品の意図を正確に表記するためのものであり、E♭管アルト又はバリトーンサクソフォンの課題曲リストにある全ての曲は検定にてどちらの楽器でも演奏できます。B♭管ソプラノ又はテナーサクソフォンの課題曲も同様です。

検定所要時間

下記に記された時間は受検者が、検定室へ入室、退室、また検定員が評価書(マークフォーム)に記入し終えるまでの大体の時間を示します。

グレード	イニシャル*	グレード 1	グレード 2 & 3	グレード 4 & 5	グレード 6	グレード 7	グレード 8
時間(分)	12	12	14	17	20	25	30

* 木管楽器にイニシャルグレードは含まれません

課題曲

このシラバスでは、課題曲はそれぞれの音楽の特徴により概ね次の様なリストに分けられています。

- リストAでは、比較的速めに動く曲が選ばれ、技術的な機敏性が必要とされます。
- リストBでは、より叙情的で、表情豊かな演奏が求められます。
- リストCでは、幅広い伝統、様式、音楽の特徴の曲が含まれています。

課題曲の組み合わせ：受検者は課題曲A,B,C各リストから1曲ずつ選曲します。受検者は、その場にて検定員に曲目を告げなければなりません。この要項の巻末にある曲目リストに記入して提出する事もできます。

課題曲レパートリーは、受検者の年代、背景、興味に合うように、できるだけ広い範囲から選ばれておりますが、中には、技術的な理由（手の大きさなど）又は曲の内容（歴史的、文化的主題、歌曲の編曲の場合はオリジナルの歌詞の問題など）が必ずしも適切でない場合もあるかもしれません。指導者や保護者は曲の選択については、あらかじめ良く相談し、又受検者が曲を検索する場合は注意を払うこと。詳しくは次のリンクをご参照ください。 www.nspcc.org.uk/onlinesafety

課題曲リストはパフォーマンス グレードと共通です。両方の検定を受検する方は、検定ごとに違う曲に挑戦してみることで得られる恩恵があるでしょう。

伴奏/デュエット：スタディや無伴奏曲として出版されている一部の曲を除いて、課題曲の演奏には全てピアノ又は木管楽器の伴奏者が必要です。グレード1から3の場合、一部または全部の課題曲においてデュエット曲を選ぶことが出来ます。デュエットとして出版されている曲はリストに**DUET**と表記されます。受検者はシラバスに特別指定がない限り、上のパートを演奏します。ピアノ伴奏と木管楽器の伴奏がどちらも出版されている曲の場合、**DUET/PIANO**と表記され、どちらの伴奏でも演奏が可能です。

一部のリコーダーデュエット曲は、上と下のパートで違う種類のリコーダーが指定されている場合があります。これらはリストに**MIXED DUET**と表記されています。同様に、一部のバスーンやサクソフォーンのデュエット曲も、それぞれ違う種類の同属楽器が指定されている場合があります。詳細はwww.abrsm.org/syllabusclarificationsにてご参照ください。

検者は自ら伴奏者を同伴する必要があると、伴奏者は伴奏の場合のみ受検会場に入ることができます。受検者の指導者は伴奏者になれます(検定員は伴奏しません)。伴奏者は音楽的な流れを崩さない範囲で、伴奏の一部を単純化できます。録音された伴奏は使用できません。

ソロ：無伴奏ソロ曲はリストに**SOLO**と表記されています。無伴奏曲の演奏は必須ではありませんが、課題曲のうち2曲まで無伴奏曲を選ぶことが出来ます。

楽譜と出版社：編曲の指定がされている場合(リストに'arr.'又は'trans.'表記)を除き、受検者は課題曲のどの版を用いてもかまいません。シラバスに示されている出版社は、あくまでも参考のためのもので強制ではありません。ダウンロード版も可能です。詳細は13ページを参照のこと。

楽譜の解釈：記載されている指使い、速度、装飾音符の弾き方などは、厳密に守られる必要はありませんが、様式に適った演奏が望ましいのは言うまでもありません。演奏にあたっては、音符やリズムが正しく弾けるだけではなく、タッチ、音色の使い分け、拍感、フレージングなどが、どのようにコントロールされ、音楽全体を形作っているかが評価の対象になります。

繰り返し(リピート)：受検者は*da capo*と*dal segno*に気をつけること。ただし、特に指示がないかぎり2.3小節以上にわたる繰り返しは演奏されないものとします。

Ossias：オッシア（別の演奏法）が表記されている場合は、特に要項に記載されていない限り、受検者の選択にまかされます。

カデンツァとトゥッティ：カデンツァは要項に指示されている場合を除き、演奏されません。伴奏者はオーケストラのトゥッティ部分を省いてください。

暗譜：暗譜での演奏は任意です。演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての受検者も必ず楽譜をご用意ください。また、暗譜の有無が評点に影響することはありません。

譜めくり：検定中、譜めくりに困難が生じたとしても、それが採点に響くわけではありません。譜めくりしにくいページはコピーを用意することもあるかもしれません（次の「コピー」の項をお読みください。）G6以上で、譜めくりがどうしても困難な場合は、譜めくり者（指導者など）を同伴することも可能です。検定員はいかなる場合も譜めくりはいたしません。また、グレード6-8に限り、伴奏の譜めくり者を伴うことが出来ます。

コピー及びダウンロード：英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合にコピーの使用が認められます。（詳しくは www.mpaonline.org.uk をご覧ください。）その他の場合においてはコピーをとる前に申請をし、検定において許可証の提示が必要です。

すべての受検者と申請者は著作権法の範囲内で行動することを求められます。不適切な行為などが判明した場合、検定結果の発表を保留する場合があります。

楽譜を求めるにあたって：検定用の楽譜は、楽譜・楽器店やオンライン書店で購入が可能です。課題曲の有効期間内は楽譜の購入が出来るような体制が採られております。受検者は必要な楽譜が品切れになる前に早めに購入することをお勧めいたします。楽譜について、検定以外に関する質問は、直接出版元へ。

スケールとアルペジオ

暗譜：全グレードにおいて、暗譜で弾くこと。

指定範囲：特に記載されている場合を除き(*)、その調の一番低い主音からはじめること。全て指定された範囲（とパターン）において上行、下行をしなければなりません。

リズム：全ての演奏は、均一の音の長さで弾かれなければなりません。

パターン：アルペジオと属七(ドミナント7)の和音は他の指定のない限り基本形のみ。全ての属7の和音は、その調の主音で終わること。スケールとアルペジオのパターン例題は英文17 - 20ページを参照のこと。

アーティキュレーション：スラーの指示がある場合、必ず全体をレガートで演奏します。ブレス(息継ぎ)の場所は、出来るだけ流れを邪魔しない範囲で、受検者が決めます。

移調管楽器：スケールの指示は実音ではなく、表記された調で行われます。(例：B♭管のクラリネットの場合、ニ長調の指示に対して、演奏される音はハ長調のスケールとなります)。

検定の実際：検定員は、各グレードの出題範囲において、アーティキュレーションのバランスを考慮しながら、少なくとも1種類のスケール・アルペジオの演奏を指示し、通常、長調から短調へと進みます。その時、検定員は下記のポイントを指定します。

- ・調[†] (短調を含むグレード6 - 8の場合は旋律/和声の区別も) 及び、弾き始めの音
- ・アーティキュレーション

参考文献について：練習用に問題集がABRSMから出版されていますが、これらの購入は必須ではありません。

* フルートの足部管で拡張される低いB(ロ)音は含まれません。

† グレード6-8にて異名同音の音階-D♭/C# and A♭/G#-では、検定員は長調の場合フラット、短調の場合シャープで呼びます。

速度：次の表は、一般的な例としてご参考ください。

	グレード/速度								
	パターン	1	2	3	4	5	6	7	8
スケール (半音階、拡張音域 & 全音階)	♪	♪ = 50	♪ = 56	♪ = 63	♪ = 72	♪ = 84	♪ = 96	♪ = 112	♪ = 132
アルペジオ (拡張音域を除く)	♪♪	♪ = 72	♪ = 84	♪ = 96	♪ = 108	♪ = 126	♪ = 48	♪ = 54	♪ = 63
属七、減七、 拡張アルペジオ	♪				♪ = 54	♪ = 63	♪ = 72	♪ = 80	♪ = 96
3度スケール	♪						♪ = 88	♪ = 100	♪ = 120

初見演奏

初見演奏の内容: 受検者は、短い新曲を演奏します。受検者は30秒の予見時間が与えられ、その間試奏をしてもよいことになっています。

出題範囲: 英文21 - 22ページの表では各グレードにおける要素の出題範囲が記載されています。

参考文献について: 練習用に初見演奏問題集がABRSMから出版されていますがこれらの購入は必須ではありません。

視覚障がいの受検者: 視覚障がいの受検者（全盲あるいは弱視）は、通常のテストの代わりに拡大楽譜や、聴覚テストなどで受検することもできます。受検申込時に、お申し出ください。詳細は、www.abrsm.org/specificneedsにて参照のこと。

オーラルテスト

テストの内容: この要綱はすべての木管楽器において同様に適用されます。詳細は英文145-152ページをお読みください。

参考文献について: 練習用に初見演奏問題集（Specimen Aural Tests / Aural Training Practice）がABRSMから出版されていますが、これらの購入は必須ではありません。

聴覚障がいの受検者: 聴覚障がいの受検者は通常のテスト以外のテストなどで受検することもできます。受検申込時に、お申し出ください。詳細は、www.abrsm.org/specificneedsを参照のこと。

*** 各楽器の課題曲リストなどは、英文シラバスを参照のこと。**

スケールとアルペジオのパターン

次の数ページにおける例は、このシラバスに記されているパターンと音域を明確に表記したものです。詳しくは、各グレード及び楽器のシラバスページをご参照ください。

全ての楽器

スケールとアルペジオ

1オクターヴ上下行後、属音まで下がる (リコーダーのみ)



12度まで(2オクターヴ半も同様に)



3度スケール

1オクターヴ(2、3オクターヴも同様に)

バスーン：変ロ長調の終わり方



12度まで

ソプラノリコーダー：
へ長調の終わり方



半音階

12度まで(2オクターヴ半も同様に)



属七音階(主音で終わる)

1オクターヴ(2、3オクターヴも同様に)



12度まで(2オクターヴ半も同様に)



減七音階

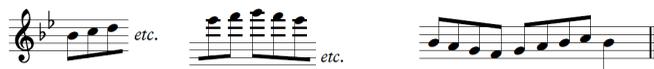
12度まで(2オクターヴ半も同様に)



トレブルリコーダー

拡張音域

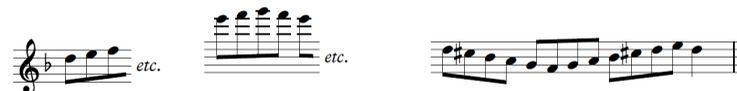
B♭ major 変ロ長調



E♭ major 変ホ長調



D harmonic minor ニ短調和声的短音階



拡張音域アルペジオ

E♭ major



D minor



フルート

拡張音域スケール

F major



G major



F harmonic minor



拡張音域アルペジオ

G major



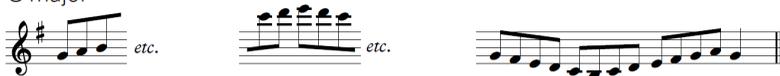
F minor



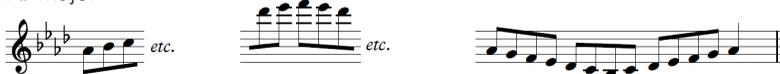
オーボエ

拡張音域スケール

G major



A♭ major



D harmonic minor



拡張音域アルペジオ

A♭ major



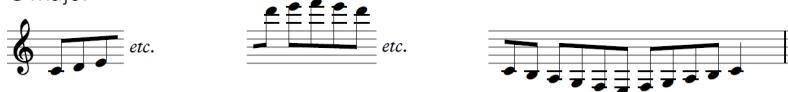
D minor



クラリネット

拡張音域スケール

C major



A major



E harmonic minor



拡張音域アルペジオ

A major



E minor



ファゴット(バスーン)

拡張音域スケール

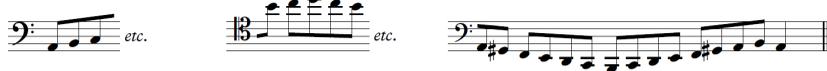
E major



A♭ major



A harmonic minor



拡張音域アルペジオ

A♭ major



A minor



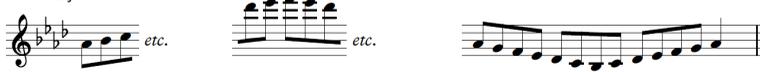
サクソフォーン

拡張音域スケール

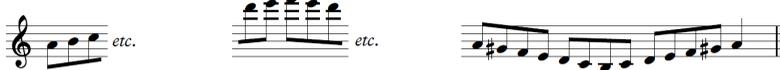
E♭ major



A♭ major



A harmonic minor



拡張音域アルペジオ

A♭ major



A minor



初見の出題範囲

以下の表は、各グレード別の出題範囲を示しています。提示された要素の範囲は、それ以降の上位のグレードにも適用されます。(訳註：例えばグレード2の実際の範囲は、グレード1+2の範囲となります。)英文16ページもご覧ください。

グレード	長さ(小節数)	拍子	その他の含まれる音楽要素
1	4	4/4	<ul style="list-style-type: none"> ♪♪♪♪ 音符、♪ 休符 タンギング・単純な2音スラー
		3/4	
6	2/4	2/4	<ul style="list-style-type: none"> ダイナミクス リコーダー: <i>mf</i> のみ その他: <i>f</i> と <i>mf</i>
2	8		<ul style="list-style-type: none"> ♪♪♪♪ と ♩、♪ のパターン、■ 休符 タイで結ばれた音符 スタッカート ダイナミクス リコーダー: グレード 1 と同様 その他: <i>mp</i> と <i>cresc.</i> 松葉マーク(ヘアピン)
3		3/8	<ul style="list-style-type: none"> 臨時記号あり(短調の場合のみ) ♪; 簡単な16分音符パターン; ♯ 休符 アクセント ダイナミクス リコーダー: <i>p</i> その他: <i>p</i> と <i>dim.</i> 松葉マーク(ヘアピン)
4	c. 8	6/8	<ul style="list-style-type: none"> 半音階の音 弱起の曲 テヌート フェルマータ ダイナミクス リコーダー: <i>f</i> と <i>mp</i> その他: グレード 3 と同様
5	c. 8-16		<ul style="list-style-type: none"> 単純なシンコペーション 終わりのテンポが遅くなる ダイナミクス リコーダー: <i>cresc.</i> と <i>dim.</i> 松葉マーク(ヘアピン) その他: <i>ff</i> と <i>pp</i>
6	c. 12-16	9/8	<ul style="list-style-type: none"> 拍子記号の変化 3連音符のパターン テンポが遅くなってから <i>a tempo</i> で戻る フルート、クラリネット、サクソフォーン: スイングスタイル ファゴット(バスーン): テノール記号
		5/8	
		5/4	
7	c. 16-20	7/8 7/4	
8	c. 16-24	12/8	<ul style="list-style-type: none"> 3連四分音符 テンポの加速 単純な装飾音 リコーダー: <i>ff</i> と <i>pp</i> フルート: <i>8va</i> の表記

調性

長調 短調 *	デサント リコーダー	トレブル リコーダー	フルート	オーボエ	クラリ ネット	ファゴット (バスーン)	サクソ フォーン
1	C, F	F, B \flat	G, F	G, F	G, F	G, F	G, F
2	D D	C g	C E	C d	C a	C e	C d
3	A	d	A	A	d	A	a
4	G E	G a	B- D	D e	B- g	D d	D b
5	A, B- b, g	D, E \flat e, b	D, A, E- b, g	A, B \flat , E \flat b, g	D, A, E \flat e, b	A, B \flat , E \flat b, g	A, B \flat , E \flat e, g
6	—	A f \sharp , c	E, A \flat f \sharp , c	E, A \flat f \sharp , c	E, A \flat f \sharp , c	E, A \flat f \sharp , c	E, A \flat f \sharp , c
7	—	E, A \flat	C \sharp , f	C \sharp , f	C \sharp , f	C \sharp , f	C \sharp , f
8	—	C \sharp , f	B, D \flat	B, D \flat	B, D \flat	B, D \flat	B, D \flat

* 短調-グレード2では自然短音階、グレード3からは全ての短音階を含む

音域の範囲†

	デサント リコーダー	トレブル リコーダー	フルー ト	オーボエ	クラリ ネット	ファゴット (バスーン)	サクソ フォーン
1	d'-d''	g'-g''	e'-f''	d'-d''	a-a'	G-g	f'-g''
2	c'-f''	f'-b \flat ''	e'-g''	d'-g''	f-b \flat '	E-b	e'-a''
3	c'-a''	f'-d''	d'-c''	d'-b''	f-g''	E-c'	d'-c''
4	c'-b''	f'-e''	d'-f''	c'-c''	f-b \flat ''	D-f'	c'-c''
5	c'-b''	f'-e''	c'-g''	c'-d''	e-d''	C-g'	c'-d''
6	—	f'-f''	c'-a''	b-e''	e-e \flat '''	B \flat '-a'	c'-e \flat '''
7	—	f'-g'' (f \sharp ''' を除く)	c'-b \flat '''	B \flat '-e''	e-e''	B \flat '-b \flat '	b-f''
8	—	f'-g'' (f \sharp ''' を除く)	c'-b''	a \sharp -f''	e-f''	B \flat '-c''	a \sharp -f''

† 音域の範囲は次のようなヘルムホルツシステムを使って表しています。



*** 各楽器の課題曲リストなどは、英文シラバスを参照のこと。**

オーラルテスト 実技検定全科目共通です。

検定では

オーラル テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1 オクターブ下げて歌うこともできます。

英文146-152ページには、各グレードの課題が詳しく述べられています。

テスト項目によっては必要に応じて質問を再度聞かれたり、検定員が再度演奏したりすることが可能な場合もあります。また、検定委員が必要に応じて助言をすることもありますが、このような場合評価に影響が出る可能性もあります。

評価

いくつかのテストでは必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは評価に影響を与える場合もあります。ここでは個々の設問で採点されたり、ミスの数で減点されるものではなく、質問に対する受検者の反応を総括的に評価します。評価の基準については160ページのリストを参照のこと。

支援教材

オーラル テストの実例は、「聴音例題集」(Specimen Aural Tests) 及び、「聴音指導書」(Aural Training in Practice) を参考にしてください。

これらは、本部のホームページや日本代表事務局で購入できます。

聴覚に障害のある受検者

聴覚障がいを持つ受検者は、通常のオーラル テストの代わりに特別の試験を受けることができます。受検申し込みの際に、お申し出ください。

詳細は、www.abrsm.org/specifcneeds を参照のこと。

イニシャルグレード*

- A** パッセージに合わせて、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせて間を置かずに拍をうってください。
- B** 2小節の3/4或いは4/4拍子のフレーズが2題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いてそのリズムを打つこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しいリズムを打つこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが2題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する1つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス (p/f、強さの変化) ②アーティキュレーション (スタッカート/レガート) についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

グレード1

- A** 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B** 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調の2小節のフレーズが2回弾かれます。**2回目に音の高さが変わっていますので、その箇所が初めの部分か、終わりの部分かを答えてください**。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス (p/f、強さの変化) ②アーティキュレーション(スタッカート/レガート)についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

GRADE 2

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B 長調の限られた音域内の5音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の2小節のフレーズが2回弾かれますので、リズム或いはメロディーの違いを答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱/強さの変化）、アーティキュレーション（スタッカート/レガート）、②テンポの変化（速くなった/遅くなった/変わらない）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

グレード3

- A 2拍子、3拍子または4拍子のパッセージが弾かれますので、拍を打つこと。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、拍子を答えてください。
- B 長調または短調で1オクターブ内の短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に続いて歌うこと。各フレーズが弾かれた後、間を置かず正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調又は短調の4小節のフレーズが2回弾かれますので、リズム或いはメロディーの違いを答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱/強さの変化）、アーティキュレーション（スタッカート/レガート）、テンポの変化（速くなった/遅くなった/変わらない）②調性（長調/短調）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

グレード4

- A 4小節の旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う（あるいは弾く）こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B 指定されたスコアを見て、5つの音を歌うこと。出題は、ハ(C)、ヘ(F)、ト(G)のいずれかの長音階の主音より上下3度までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。

はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。

- C 1. 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に教えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性 ②曲の特徴に関するものです。 曲を弾く前に質問事項が告げられます。
2. C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを教えてください。

グレード5

- A** 短い旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う（あるいは弾く）こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と最初の音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** 指定されたスコアを見て、6つの音を歌うこと。出題は、シャープ、フラット2つまでの、いずれかの長音階の主音より5度上、4度下までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかを、選択出来ます。
- C1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に教えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、②形式、時代様式に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C2** C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを教えてください。

グレード6

- A** 二声のフレーズが2回弾かれますので、上声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** スコアを見て、伴奏にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット3つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)、半終止(imperfect)の基本形に限られます。初めに主和音が与えられます。
- D1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は①曲における音の重なり(texture)、形式 ②ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、のうち一つです。
- D2** 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください。

グレード7

- A** 二声のフレーズが2回弾かれますので、下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** スコアを見て、下声部の伴奏（検定員による）にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C1** フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)の基本形に限られます。初めに主和音が与えられます。
- C2** 上記C1の終止形における2つの和音を答えること。範囲はトニック(主和音-I)、サブドミナント(下屬和音-IV)、ドミナント(属和音-V)、ドミナント7th(属七の和音-V7)、およびサブミディアン(下中和音-VI)の各基本形に限られます。調名と主和音が与えられた後、2つの和音が続けて弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよい。
- C3** 長調で始まる短いパッセージが弾かれますので、転調を答えてください。出題は属調、下屬調、平行短調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。質問の範囲は、ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、音の重なり、および形式です。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- D2** 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4或いは6/8のいずれの拍子であるかを答えてください。

グレード 8

- A1** 三声のフレーズが2回弾かれますので、最下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。
フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- A2** 長調又は短調のフレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)、変格終止(plagal)に限られません。終止形を作る和音の範囲は、トニック(主和音-I)の基本形、第1,2転回形、スーパーニック(上主和音-II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下屬和音-IV)の基本形、ドミナント(属和音-V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音-V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音-VI)の基本形です。初めに主和音が与えられます
- A3** 上記の終止形における3つの和音と転回形を答えてください。出題は、トニック(主和音-I)の基本形、第1,2転回形、スーパーニック(上主和音-II)の基本形、第1転回形、サブドミナント(下屬和音-IV)の基本形、ドミナント(属和音-V)の基本形、第1,2転回形、ドミナント7th(属七の和音-V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音-VI)の基本形です。初めに主和音が与えられ、次に3つの和音が続けて弾かれます。その後それぞれの和音がもう一回ずつ弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよい。
- B** スコアを見て、上声部の演奏にあわせて下声部の旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** 2つの短いパッセージが、各々一回ずつ弾かれますので、転調を答えてください。一つめは長調で始まり、次は短調で始まります。出題は属調、下屬調、平行調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D** 検定員が曲を弾きますので、その曲のテクスチャー、構成、特徴、時代様式などについてディスカッションします。必要に応じて、検定員がヒントを与えることもあります。

4. 評価と採点及び違反行

評価の目的

次の表は実技検定の際、受検者に必要な知識や技術のレベルを表しています。これらは検定員が評価する際の基準と連動しています。詳しい評価基準は英文159-160ページをご覧ください。

(訳註：英文153-156ページの基準一覧は英国圏でのレベル分けとなっている為、和訳は省略)

Grades 1 to 3 (RQF Level 1)

評価の配点

木管楽器対面実技検定評価の点数は、下記の様に、要素毎に振り分けられています。

検定の区分	セクションの満点	合計点に対する配分
課題曲 1	30	20%
課題曲 2	30	20%
課題曲 3	30	20%
スケールとアルペジオ	21	14%
初見	21	14%
オーラルテスト	18	12%
合計	150	100%

評点の区分

以下は検定結果の区分け一覧です。全体合格を獲得するために、各項目において、必ずしも100点（66%）を獲得しなければならないということではありません。

評点の区分	評点の範囲
Distinction (優)	130–150
Merit (良)	120–129
Pass (合格)	100–119
Below Pass (不合格)	50–99

包括的評価について

包括的評価とは、受検者が主要な課題において必要な技術、知識など効果的に使い、示しているかを判断する評価の形式のひとつです。実技検定では異なるスキル、知識、理解力ー理論、表記、楽器のコントロール、聴く力、創造的な解釈力等をまとめて、検定の個々の科目に応用することが出来るのです。

評価

検定員の評価は、当日の検定内容のみに基づいて行われます。以前のパフォーマンスは評価の対象とはなりません。又、パフォーマンス・グレードと対面実技検定の間で評点の変更が行われることはありません。

違反行為

受検者/受検予定者は、実技検定要項(セクション3を参照)に掲載された検定内容を読み、遵守することが重要です。これらに違反した場合は、ABRSMの裁量にて警告、減点或いは失格となる場合があります。以下は違反行為の例です：

- 当該グレード要項に掲載されていない曲を演奏する
- 当該グレード要項に掲載されているが、細かい部分で不適当である（例：楽章が異なる、リストからの選曲の組み合わせが正しくない等）
- 楽器の場合、スケールを、楽譜を見て演奏した場合
- 声楽及びミュージカルシアターにおいて、無伴奏曲が極端に短い／長い場合

上記の例のみに限りません。

これらに対する対応としては：

- 書面での警告：主に細かい違反（例：同じリストから2曲選択）に対して行われます。それ以降の検定において違反行為が続く場合には、より重い罰則が科せられます
- 各要素（訳注：課題曲1など）の減点：要項に掲載されていない曲の演奏のようなより重要な違反に対しては、各項目つき3点からその項目の満点までの範囲において減点が行われることがあります。
- 基本的に検定内容が遵守されていない場合（例：当該グレードからの選曲が皆無である等）には失格もあり得ます。

検定員は違反行為をABRSMに報告し、その裁量と対応がなされます。その為、結果通知が遅れる場合があります。以前違反行為に対して罰則を受けなかった経験を証拠に使うアピールは受け付けられません。

評価の基準（Marking Criteria）

英文159 - 160ページの評価リストは検定員が実際使用するもので、科目ごとに合格基準をもとにして合格点からプラス或いはマイナスしていくという採点方式です。検定員はこのリストに掲載されている各要素（大別して、音の高さ、拍感、音色、フレーズ、演奏力など）を通してみられる全体的な音楽的資質や能力を考慮して結果を出します。

採点基準

イニシャルから グレード8まで	課題曲 音符/音程	拍子/テンポ/リズム	音色	音楽的な形付け	演奏全体
Distinction 優 27-30点	・ 極めて正確な音符 /音程	・ 流暢 ・ ルバートの適切な使用 ・ リズムの特徴を把握	・ 明快さ ・ 音色の使い分け	・ 細部にわたる音楽的 かつ様式に合った豊 かな表現	・ 自信に満ちた演奏 ・ 時代様式を生き生きと 伝えている
Merit 良 24-26点	・ ほぼ正確な音符/ 音程	・ 持続性のある適切なテン ポ ・ 良いリズム感	・ 音色のコントロー ル ・ 音色への配慮	・ 細部に留意し、明快 な音楽表現	・ 積極的な演奏 ・ 音楽の理解がみられ る ・ 曲の特徴、様式の伝 達
Pass 合格 20-23点	・ 大体正確な音符 ・ 調性を保つに十分 な音程	・ ほど良いテンポ ・ ほぼ安定した拍感 ・ リズムの正確さ	・ 安定感 ・ 音色の意識	・ 音楽的な形付け/細 部への配慮が見られ る	・ 適度な安定性/ミスか らの速やかな回復 ・ 音楽的表現への配慮
Below Pass 不合格 17-19点	・ 煩雑なミス ・ 調性に影響する音 程の不安定さ	・ 不適切なテンポ ・ 不安定なテンポ/拍感 ・ 不正確なリズム	・ 不揃い/不安定な 音色 ・ 不適切な音色	・ 音楽的な形付け/細 部への配慮が不十 分	・ ミスからの回復が困難 ・ 音楽的配慮が不十分
13-16点	・ 殆ど不正確な音 符/音程	・ テンポが維持されない ・ 拍子感の欠如	・ 音色コントロール の配慮が不足	・ 音楽的な形付け/細 部への配慮が殆どな い	・ 演奏の中断 ・ 音楽的配慮の欠如
10-12点	・ 極めて不正確な音 符/音程	・ テンポ/拍子感の欠如	・ 音色コントロール の欠如	・ 音楽的な形付け/細 部への配慮が欠如	・ ミスが多く、フレーズを 弾くのがやっとの状態
0点	・ 演奏が不可能	・ 演奏が不可能	・ 演奏が不可能	・ 演奏が不可能	・ 演奏が不可能

イニシャルから グレード8まで	スケール・アルペジオ	初見演奏	イニシャルから グレード8まで	オーラルテスト
Distinction 優 19-21点	<ul style="list-style-type: none"> 極めて正確な音符/音程 流暢でリズムカル 音楽的な演奏 自信をもって即弾き始める 	<ul style="list-style-type: none"> 流暢で正確なリズム 正確な音符/音程/調の理解 音楽的に理解している 自信をもって弾いている 	Distinction 優 17-18点	<ul style="list-style-type: none"> 全て正しく答えている 音楽的に理解している 自信をもって即答している
Merit 良 17-18点	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ正確な音符/音程 ほぼ安定して流れている 均一な音色 直ちに弾き始める 	<ul style="list-style-type: none"> 適切なテンポ、拍も安定している ほぼ正確なリズム ほぼ正確な音符/音程/調の理解 ほぼ安定した演奏 	Merit 良 15-16点	<ul style="list-style-type: none"> 弱点はあるが、それに優る力が顕著である 音楽的に理解している 安定した反応
Pass 合格 14-16点	<ul style="list-style-type: none"> ミスはあるが大体正確な音符/音程 止まらずに弾いている ほぼ安定した音色 慎重な弾きはじめ 	<ul style="list-style-type: none"> 流れは感じられる 大体正確な音符 ミスはあるが、アウトラインは把握 慎重な演奏 	Pass 合格 12-14点	<ul style="list-style-type: none"> 弱点はあるが、それに優る力が認められる 反応が遅い
Below Pass 不合格 11-13点	<ul style="list-style-type: none"> 音符/音程にミスが多い 流れが不安定/こなせていない課題がある 不安定な音色 弾き始めに時間がかかり、弾けない課題がある 	<ul style="list-style-type: none"> 継続性に欠ける 音符の長さが不正確 音符/音程/調の理解が大まか 不安定な演奏 	Below Pass 不合格9-11点	<ul style="list-style-type: none"> 欠点が多い 不確かな反応
7-10点	<ul style="list-style-type: none"> 不均等な音符/音程 極端にムラがある 音色コントロールの欠如 部分的に弾けない 	<ul style="list-style-type: none"> 継続性なし/弾き通すのが困難 音符の長さの認識に欠ける 音楽のアウトラインが欠如 極めて不安定な演奏 	6-8点	<ul style="list-style-type: none"> どのテストにおいても正確さに欠ける 非常に遅い反応
0点	<ul style="list-style-type: none"> ほとんど弾けない 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんど弾けない 	0点	<ul style="list-style-type: none"> ほとんど答えられない

5. 検定の後に

結果

全ての受検者は検定の結果をデジタル評価書で受け取ります。又合格者へは、資格のタイトル、楽器、グレードが記載されたデジタル合格証書が発行されます。印刷された合格証書は、少額の手数料を支払うことで入手が可能です。ABRSMはできるだけ www.abrsm.org/results のスケジュールに沿って、結果を発表するようにしておりますが、遅れる場合もあります。評価書と合格証書は、申込者に発行されます。もし受検者もアカウントを持っている場合は、申込者に結果が発表されてから7日以内に自信のアカウントでも確認できます。検定員が受検者の結果について語ったり発表したりすることはありません。

アピールとフィードバック

アピール

受検者が予期せぬ結果を受け取った場合は、**Result Review** を要求することが出来ます。これにより検定員からの評価が再検討され、場合によっては、評点の変更もあり得ます。

フィードバック

結果再検討に加えて、結果以外のフィードバック、例えば検定全般や、マークフォーム（評価書）などについてのフィードバックも歓迎いたします。これにより継続的な検定の改善を目指しております。アピール、フィードバックの期限などの詳細は www.abrsm.org/send-exam-feedback をご覧ください。

Exam programme & running order

Name: _____

Subject: _____ Grade: _____

What would you like to start your exam with? _____

Please write details of the items you are performing in your exam in the order you are presenting them and hand this slip to the examiner. Best wishes for an enjoyable and successful exam!

Year of syllabus: _____

List*	Number	Composer	Title

Singers only: unaccompanied traditional song: _____

Percussion (Combined) only: technical requirements on: _____

* Leave blank for Snare Drum, Timpani and Tuned Percussion

課題曲リスト（演奏順）

Exam programme & running order

氏名 Name: TARO KAKEHASHI
 楽器 Subject: PIANO グレード Grade: 5

曲とスケールどちらから始めますか？
 What would you like to start your exam with? PIECES

検定で演奏する曲の詳細を、演奏順に書いて、これを検定員又は受付に渡してください。検定が楽しく成功적입니다ように！
 Please write details of the items you are performing in your exam in the order you are presenting them and hand this slip to the examiner. Best wishes for an enjoyable and successful exam!

シラバス年度 Year of syllabus: 2025-2026

曲リスト List*	番号 Number	作曲家 Composer	曲名 Title
A	2	Clementi	Spiritoso(1st mvt. from Sonatina in C, Op.36 No.3)
C	1	Joe Hisaishi	The Village in May arr. Kawaura
B	3	Schubert	Waltz in B minor D.145 No. 6

声楽のみ：無伴奏曲

Singers only: unaccompanied traditional song: _____

打楽器（パーカッション・混合）のみ：スケール・アルペジオの楽器：

Percussion (Combined) only: technical requirements on: _____

* Leave blank for Snare Drum, Timpani and Tuned Percussion